

2014年（平成26年） 山のトイレを考える会 活動報告

山のトイレを考える会

1. フォーラム案内、ニュースレターを送付（2014年1月21日）

第15回山のトイレフォーラム案内とNO.15ニュースレターを会員及び関連団体へ約400通送付しました。

2. 平成26年度定期総会の開催（2014年3月8日）

第14回フォーラム開催日に定期総会を開催しました。平成25年度事業報告、会計報告、平成26年度事業計画案、予算案について承認していただきました。

3. 第15回山のトイレフォーラムを開催（2014年3月8日）

第15回山のトイレフォーラムが道立道民活動センター（かでの2・7）で開催され、50名の参加者を迎えて行われました。テーマは「みんなで取り組む山のトイレ問題」でした。

今回は基調講演をしないで、山のトイレ問題に積極的に取り組んでいる方から報告をいただき、問題解決に向けディスカッションしました。

（報告1）空沼岳万計山荘友の会の20年 長水 洋氏（万計山荘友の会会長）

（報告2）利尻山のトイレ問題 八森大介氏（利尻富士町）

（報告3）アポイ岳のトイレ問題 佐々木泰氏（アポイ岳ファンクラブ）

（報告4）黒岳バイオトイレ問題 端場強実氏（上川総合振興局）

（報告5）大雪山国立公園の山岳トイレ管理レベルを考える

野川裕史氏（環境省上川自然保護官事務所）

4. 北海道地方環境事務所主催の会議に出席（2014年1月～12月）

環境省北海道地方環境事務所主催の「大雪山国立公園表大雪地域情報交換会」が6月9日美瑛町で開催され、愛甲事務局長が、また東大雪地区の情報交換会が6月17日に帯広市で開催され小枝副代表が参加しました。さらに12月19日、上川総合振興局で開催された表大雪の情報交換会に愛甲事務局長が参加しました。

1月27日、12月9日の「大雪山国立公園における登山道管理水準等検討会」に小枝副代表が参加しました。

このような山の現状をよく知っている関係者が一堂に会する会議に参加することは、北海道の最新の情報が入手できるとともに、相互にコミュニケーションが図られ、信頼関係も醸成されることから、施策を実施する上で貴重な提案や協力を得ることができます。これからもこのような情報交換の場に積極的に参加したいと思っています。

5. トイレマップとマナーガイドを印刷（2014年6月13日）

トイレマップを5,000部、マナーガイドを3,000部印刷しました。

6. 北海道の山開きでトイレマナー啓発（2014年6月～7月）

十勝岳の山開き（6月15日）は4コース、大雪山山開き（6月29日）は3コースで実施されました。主催者側に大雪山はマナー袋とマナーガイドを170部、十勝岳はマナー袋を100部送付し、参加者に配布していただきました。また、前日の宿泊所で主催者側から山のトイレマナーについて説明、情報提供をしていただきました。

また、今年初めて美唄山（6月8日）と斜里岳の山開き（7月6日）にも啓発ツールを送付しました。美唄山ではマナー袋とマナーカード60部、斜里岳ではマナーガイド、トイレマップを60部、登山者に配布していただきました。

7. 山のトイレ案内を送付（2014年7月22日）

会員と行政に「2014山のトイレ案内」と「知床登山マナーチラシ」を約144通送付しました。今まで約400通送付していましたが、できるだけメールでの送付に切り替え、経費の節減を図ることとしました。

8. 羊蹄山避難小屋トイレ調査（2014年8月2日～3日）

羊蹄山避難小屋は今シーズンから新しい避難小屋が使用開始されました。トイレは北海道の山岳トイレで初めて導入された土壌処理方式です。

そのトイレを実際に見て、登山者や管理人さんにヒヤリング、課題を把握する為に会員5名で現地調査に行きました。トイレは2室あり、使用した紙は全て持ち帰るルールになっていました。登山者には管理人さんから説明、持ち帰りを徹底しているとのことでした。

調査結果の主な課題は次のとおりです。関係機関に通知して改善を図るよう要請します。

- ①土壌処理方式の性能検査の実施。データ公表
- ②2室同じ便器のトイレだが男女別になっている。男女別にしない方が混雑緩和になる
- ③便器の蓋をしないと臭いが部屋に流入する（換気の改善）
- ④窓に網戸が無いので蠅が入る

9. 2014全道一斉山のトイレ実施（2014年9月7日）

北海道の40箇所の登山口で新しいトイレマップやマナーガイド、マナー袋等を配布、トイレ紙やゴミを拾う清掃登山を行いました。今回で14回目です。

参加者は124名と過去最も多くの方が活動に協力してくれました。トイレマップ1,019部、マナーガイド1,025部、マナーカード130枚、マナー袋2,462部を配布することができました。

今回は、特にトイレ紙の持ち帰りを登山者に呼びかけ配布しました。初めて活動に参加する人も多く、皆さん一人での活動に不安を感じながらも、実施後はやってよかったとの報告が多数ありました。

1 0．幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに参加（2014年9月13日～15日）

日高山脈ファンクラブ（樋口和生会長）主催の幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに、当会の会員も参加しました。総勢27名で排泄物210kgを担ぎ下し、便槽は空になりました。

全てボランティアで実施してきた幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしは、事業の固定化を避けるため、今年の10年目をもって終了することになりました。

次年度からは山荘の管理者である平取町で実施する予定です。

1 1．各種山岳団体学習会に講師派遣（2014年6月～11月）

山岳団体から講演依頼があり、当会の事務局委員が対応しました。登山者の生の意見を聞く機会でもあり、今後も積極的に要望に応じていきます。

- | | |
|-----------------------|------------------|
| ①ユウパリコザクラの会登山研修会 | 仲俣善雄（2014.6.14） |
| ②北海道登山研究集会 自然保護分科会 | 小枝正人（2014.11.9） |
| ③北海道高山植物保護ネット・市民フォーラム | 愛甲哲也（2014.11.29） |
| ④小樽労山自然保護学習会 | 小枝正人（2014.11.30） |

1 2．美瑛富士トイレ管理連絡会設立に向けた活動

当会は美瑛富士避難小屋へのトイレ設置を目指していましたが、建設と維持管理の困難性から携帯トイレの導入に舵を切ることになりました。避難小屋の野営地に携帯トイレブースを設置、登山口に携帯トイレ回収ボックスを設置する構想です。

携帯トイレブースは定期的なメンテナンスが必須です。その維持管理を北海道の山岳団体が分担してできないか各団体に呼びかけ、承諾に向け折衝しているところです。

回収ボックスの管理と投入された使用済み携帯トイレの処分を美瑛町にお願いしなければなりません。また環境省や林野庁、美瑛山岳会の協力も得なければなりません。

今年度はその準備に時間を割いてきました。来年3月、携帯トイレブースを点検パトロールするための組織「美瑛富士トイレ管理連絡会（仮称）」を設立する予定です。

12月18日には愛甲事務局長が美瑛町に出向いて、担当者に携帯トイレ導入の説明をしてきました。

2015年度、試行実施、2016年度、本格実施に向けて準備を進めています。

（以 上）